



1152 4年 Aさん「私のペットの魚」4/3

私は魚のペットを飼っています。魚のことをいろいろ勉強したいので、お母さんとお父さんに聞きました。YouTube も見ました

私「魚って、私達の声が聞こえるの？」

父「Yes, fish don't have ears that we can?.

but, They have ears parts inside the heads. 」

父「They pick up sounds in the water through their bodies and in their internal ear.

YouTube で、魚が人の歌っている歌を聴いていて、誰が歌っているかもわかっている事を調べました

母「 I searched in Google. Fish listen to music.

Goldfish not only listen to music, but they also distinguish one composer from another.」

私の魚のペットは自分の名前が分かっていて、名前を呼んだらすぐ反応します。

★ 魚は今まで思っていたより知能があるようです。魚の種類にもよるでしょう。名前を呼んで反応するとは、なかなか賢い。ゴールドフィッシュは誰が歌っているかまで分かるのですね。



1153 5年 Bさん「ハトが小石を食べるのなぜ」3月30日

母 「ハトって何で地面つつきよるか分かる？」

ぼく「小石を食べよんだろ？」

母 「じゃあ、どうして小石を食べよるか知ってる？」

ぼく「それは分からん。」

母 「小石を食べて、食べ物を消化させよんよ。」

ぼく「小石で消化？」

母 「この石のことを胃石って呼ぶんやけど、鳥には歯がないけん、エサを丸呑みするん。胃の中で石を使って食べ物も細かく砕いて消化しやすくしよるみたいよ。胃石は歯の代わりをしよんよ。」

兄 「地面で食べ物をかみよる間に、他の動物からねられるとか聞いたことあるで。」

母 「エサを丸呑みして、空を移動しながら胃石で食べ物を細かく砕くことを選んだんだって。」

ぼく「小石を食べるのも色々理由があるんやなあ。」

兄 「テレビでハトのお腹の中をレントゲン撮ったら石がいっぱい写ったのを見たことあるわ。そういう理由があったんやなあ。」

★ ハトのレントゲン写真は「チョコちゃんに叱られる！」ではないですか？ 私も見ました。



0000 5年 高橋諒羽さん「ザリガニの色の秘密」4/7

「残念な生き物の事典」という本に書いていたザリガニは、食べ物で体の色が変わります。初めて知り、驚いたので紹介します。

ぼく「ねえねえ、ザリガニは何で体の色が変わると思う？

母 「知っとるよ。食べ物で色が変わるんでしょ？ 説明を読んでみなよ。」

ぼく「分かった。読んでみる。」

アメリカザリガニといえば、赤いイメージですが、実は若い時はグレーです。大きくなるに従って赤く変化します。また、環境にも敏感です。水質がアルカリ性だったり、周りの色が明るかったりすると体色は薄くなります。逆に酸性だったり暗かったりすると体色は濃くなります。

彼らの体の色はカロテンという色素で作られており、水草やヨコエビなどの食べ物から取り入れています。そのためアジやイワシなどカロテンを含まないものをだけを食べていると、赤みが薄くなり、最終的には色が抜けて白くなってしまいます。

0000 「ウィルスは身内だからなくせません」4/3

生物学者の福岡伸一さんが面白いことを書いていたので紹介します。(4/3 朝日新聞)

「ウィルスはもともと私たちのものだった。それが家出し、また、どこかから流れてきた家出人を宿主（私たちも含む）は優しく迎え入れているのだ。」

私たちはウィルスを積極的に招き入れ、ウィルスの遺伝子を取り入れています。

ウィルスは殻と遺伝子。高等生物の遺伝子が外に飛び出したものがウィルスです。

病気になって死ぬかもしれないのに、どうして自分の体に招き入れるの？

進化を早めてくれるから。

ウイルスが人以外の生き物の遺伝子を運びます。その遺伝子が役に立つ遺伝子なら進化のジャンプが起こります。私たちのような哺乳類が生まれたのもウイルスの遺伝子のおかげと考えられています。逆の場合もあったでしょうが、生き残れません。

カビのような菌類、病気の原因となる細菌類。この二つは別物ですが「汚い」「危険」と思っていますか。美味しい食品を作ったり、病気の特効薬としての働きもあります。ウイルスも同じです。

「ウイルスは私たち生命の不可避的な一部であるがゆえに、それを根絶したり撲滅したりすることはできない。私たちはこれまでも、これからもウイルスを受け入れ、共に動的平衡を生きていくしかない。」

ウイルスは共存するしかない。と、いうことです。

パンデミックは、繰り返し起こります。

0000 「ウイルスは身内だからなくせません」 4/3

生物学者の福岡伸一さんが面白いことを書いていたので紹介します。(4/3 朝日新聞)

「ウイルスはもともと私たちのものだった。それが家出し、また、どこかから流れてきた家出人を宿主（私たちも含む）は優しく迎え入れているのだ。」

私たちはウイルスを積極的に招き入れ、ウイルスの遺伝子を取り入れています。

ウイルスは殻と遺伝子。高等生物の遺伝子が外に飛び出したものがウイルスです。

病気になって死ぬかもしれないのに、どうして自分の体に招き入れるの？

進化を早めてくれるから。

ウイルスが人以外の生き物の遺伝子を運びます。その遺伝子が役に立つ遺伝子なら進化のジャンプが起こります。私たちのような哺乳類が生まれたのもウイルスの遺伝子のおかげと考えられています。逆の場合もあったでしょうが、生き残れません。

カビのような菌類、病気の原因となる細菌類。この二つは別物ですが「汚い」「危険」と思っていますか。美味しい食品を作ったり、病気の特効薬としての働きもあります。ウイルスも同じです。

「ウイルスは私たち生命の不可避的な一部であるがゆえに、それを根絶したり撲滅したりする

ことはできない。私たちはこれまでも、これからもウイルスを受け入れ、共に動的平衡を生きていくしかない。」

ウイルスは共存するしかない。と、ということです。

パンデミックは、繰り返し起こります。

